

町内の会社 紹介します

ゼンミ食品株式会社

所在地 橋 場

代表取締役社長 鶉橋誠一氏

ゼンミ食品株式会社は、大手食肉取扱業者と食品メーカーの合弁会社で、畜肉（牛・豚・鶏など）と野菜を原料（100パーセント天然物）にして業務用のスープを作っている会社です。

食肉取扱業者で朝処理した牛豚の骨が、その日の夕方には抽出用の釜に入るようなシステムになっており、野菜が入れられ、エキスの抽出、味つけ、濃縮などを行い、約三日間ほどで製品

になります。

町中のラーメン店では、スープを取る原料の入手や、だしを取った後の骨の処分が困難になってきているため、有名なラーメン専門のチェーン店などからの依頼が多く、依頼者との共同研究により、原料配合の調整を行い希望に合ったスープを製造し、販売しています。

また、最近では天然物し好になっているため、カレーやカップラーメン・おかきやつげ物などにも天然エキスが用いられるようになり、増ます需要が伸びているそうです。

衛生面とスープの研究には最善の努力がなされているとのことでした。

昭和五十五年九月に設立、以来着実に業績を上げており、事業の拡張予定もあるそうです。

町長 ひとくごと

齊藤 讓

喧噪の地方統一選挙も終り、町には再び静かな佇まいがもどってきた。見わたせば万里の春である。野山に花は燃え、小鳥はうたい、耕地は黒土に犁かれ躍動する力強い息吹を感じる好季節である。

この季節を迎えると、私はきまって子供の頃を懐しく思い出すのである。私の子供の時代は、

国中が敗戦から立ちあがって増産意欲にもえ、働手である大人はみな朝から晩まで夢中になって忙しく働いていた。しかし、生活物資はいまだ乏しく、どこ

の家も貧しかった。子供達の身なりも、兄や姉の着古したおさがりを纏っている者が多かったが、誰も気にかける者はいなかった。食べ物も乏しく農家でさえも米が不足し、これを補うために麦飯やサツマイモ飯が常用され、七、八月の夏の端境期になると連日うどんが続いたりした。だから、祭りや祝いごと等の数

少ない人寄せ行事に出るご馳走は、子供達にとって唯一の楽しみであり又贅沢であった。子供のおやつは、蒸したサツマイモか味噌をつけた麦飯のオムスビと相場が決っていた。粗末な食事やおやつではあったが、常に空腹感と戦う子供にとっては結構おいしく胃袋を満たし十分活力源となっていたのである。

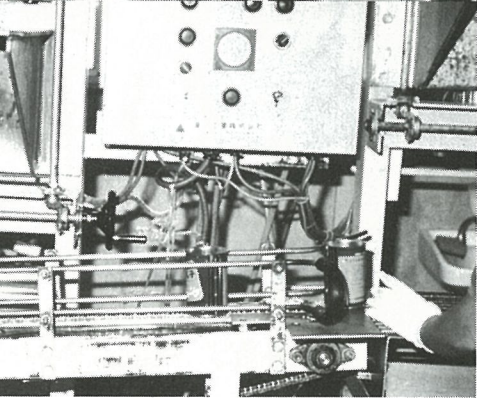
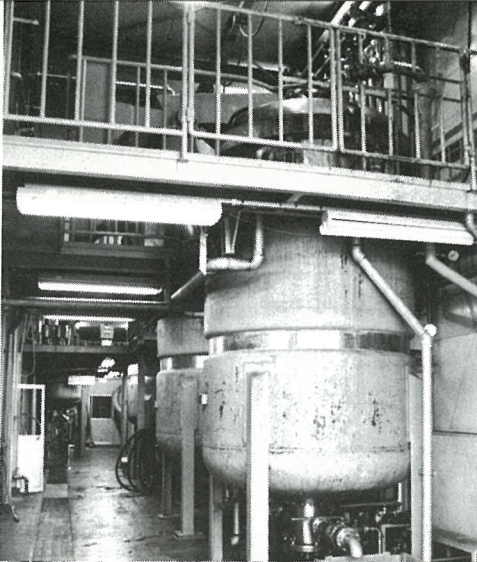
春風が吹き、なの花が田畑を黄色に染め、白装束のお遍路が田なかの道を急ぐ頃になると、いよいよ腕白小僧たちの天下である。寒くて長い冬の間、陽だまりを求めてイモ虫のように群れていた子供達は、待ちかねた

ようにいつせいに外に飛び出すのである。むせかえるような春の大自然の中で、野山に鳥を追い、小川で小鮒を釣り、田んぼで泥鰌を掘った。当時は塾などもなく、勉強は二の次、三の次で、とに角、泥まみれになって遊ぶことだけに熱中していた。

行動は、部落中の上は中学生から下は入学前の小さな子供に至るまでが常に一団となって動いた。だから自然に先輩、後輩の長幼の序が生まれ、群れの中で多少のいざこざが起きてもすぐにまるく治まりもした。真黒になつて遊びほうけている間にも、いつしか近所のお姉さんに胸をときめかせる淡い恋心が生まれ、性に目覚める頃でもあった。子供達の舞台は、すべて自然の中であつたから、今でも四季の移ろう度に遠いあの頃の思い出が、甘ずっぱい感傷をともなつて鮮烈に蘇ってくるのである。



抽出されたエキスの貯蔵タンク



エキスとオイルが注入され製品に▼